



ちきゅう みず 地球の水はどうしてできるの

おおむかし ちきゅう くも 大昔の地球に雲ができた

いま 4 6 億年ぐらい前、地球が誕生したところに、地球のあちこちで火山の爆発が起きていました。火山の爆発によって、地球の中にあった水蒸気や二酸化炭素が、地球の外にふき出されました。地球の外に出た水蒸気は、熱かった地球が冷えるにつれて、雲をつくりました。この雲がものすごい大雨を降らせ、海の水ができました。

海の水は、太陽の熱によって蒸発し、水蒸気になって空に上がっていきます。この水蒸気が雲をつくり、海や陸に雨を降らせます。このように水は、また、地表にもどってくるので、今でもなくならないのです。

みず すがた か 水は、姿を変えてめぐっている

わたしたちが、いつも使っている水道の水は、浄水場から水道管を使って送られてきます。浄水場に送られてくる、地下水や川などの水は、もともと雨や雪の水です。

雨や雪になって地表に降ってきた水は、海では、そのまま水の量を増やします。陸では土にしみこんで地下水になったり、川や湖に流れこんで、水の量を増やします。川の水は海に流れこんで、海の水の量を増やします。

海や陸の水は、太陽の熱によって蒸発し、水蒸気となって大気中にふくまれます。大気中の水蒸気は、いろいろな所に運ばれて雲をつくります。また、この雲から雨や雪が降ってきます。

このように、地球上の水は、雨や雪によって増え、蒸発によって減っているようにみえますが、姿を変えて、地表と大気の間をめぐっています。ですから、いつも同じ量を保っています。(監修・小川 格)

